

奥様の立場から、家族のサポート、心構えについて、
皆さんに知ってほしいことを書かれています

「関節リウマチ 家族手記」

福田文雄（奥様記述）69歳

2015年12月1日

福田と出逢ったのは平成16年5月でした。ひどいリウマチとは思えない程前向きで、笑顔の素敵な中年男性でした。そんな彼も時折痛みを堪えて無口になったりしていました。

その後、家族になった私は、足を引き摺って歩く姿を見て「なんとか良くなってほしい」と思い、健康布団、マッサージチェア、温泉の素、サプリ等々、ありとあらゆる物を購入し、試してもらいました。

福田は既に世間では名の通った大学病院にかかっていたのですが、激痛は取れず、平成20年9月には医者への勧めもあり、人体実験とも言える治験にまで手をだしました。その結果、劇的に痛みは取れましたが、投与される治験薬が強い免疫抑制剤だった為、手、足の爪が爪白癬に罹り、治験開始2年目には顔から頭部にかけて帯状疱疹が出ました。

平成26年の暮れから27年の3月ころまで咳が長引いて、間質性肺炎を疑いました。私は「とうとう副作用が出た」と生きた心地がしませんでした。私も福田の受診時に同行し、主治医に毎回血液検査をしてもらっていましたが、「KL6（間質性肺炎）の検査はして頂いているのでしょうか？」と聞いても、「その検査は国から止められているので出来ない、検査内容は制限されている」という信じられない答えが返ってきました。私は耳を疑いました。一番大事な副作用の検査をせず、「私は知りませんよ」みたいな感じで、「この患者さんはもともと間質性肺炎が有ったかも」と口を濁したこともありました。治験を受けている時には、そんなことは一度も言われなかったのに。

主治医の診察態度は、パソコンばかり見て脈も取らず、聴診器を当てることもなく、話もろくにきかないというものでした。治療費は40日で5万円もかかっていました。福田は今までのドクターを頼りに、13年間も副作用の強い毒に等しい薬を飲まされ続けたのに、まるで他人事でした。これでは副作用に殺されるのは時間の問題だと考え、この無責任な大学病院や副作用の強い西洋医学と縁を切り、東洋医学に切替える事を決意しました。インターネットで“漢方 リウマチ”と検索すると“漢方松本医院”にヒットしました。

先生の論文を何回も読み返した結果、医学用語は解かりませんでした。リウマチをアトピーに変えて完治させるということは解かり、迷うことなく二人で受診することにしました。(幸運なことに5月の連休にも関わらず新幹線のチケットが取れました)。

診察室に入ると松本先生は「リウマチは治る」とおっしゃいました。治療は漢方煎じ薬、漢方入浴剤、抗ヘルペス薬、お灸、鍼とまさに東洋医学そのものといった内容でしたが、そのおかげで私の仕事は何倍にも増えました。毎朝一時間かけて(多い時は3種類の)薬を煎じ、週二日の漢方風呂の準備。アトピーが変わってからは、家具の上に皮膚がポロポロと落ちて白くなるので毎日の掃除機かけ、洗濯と大変でした。

その上食欲は旺盛で、おやつは買っても、買ってもすぐに無くなりました。リンパ液が出る時にたんぱく質を消費するので、栄養を摂らせるため、何品ものおかずを作りました。福田は流れ出るリンパ液の処置に追われ、漢方風呂には週二日(1回3時間)入り、毎日のお灸は1時間を要し、一番ピーク時は寝たきり状態で動けませんでした。

先生が「初回受診時は必ず家族一緒に」と言われるのは、この事があるからだとは解かり、激しいリバウンドでも家族と一緒に立ち向かえば乗り越えられると実感しました。

そうこうしているうちに福田のCRPは正常値(つまり完治)になり、その代わりに今度は酷いアトピーになりました。これは本人が大変でした。別紙(福田の手記)の写真にもある様にもものすごいアトピーでした。福田は24時間続く激しい痒みと、洋服が着られない程のチクチクした痛みで夜も眠れなくなりました。これは本人に頑張ってもらうしかなく、私には解からない辛さでした。

しかしアトピーが出始めた途端にリウマチの症状が消え始め、CRPの数値が正常値になったので、この時、松本理論の正しさに確信が持てました。リバウンドがピークの時には私の方がめげてしまって、「元の治療に戻る」と言ってしまうましたが、「俺は絶対にいやだ」と福田は言いました。福田の意思は強かったのです。

そして酷いアトピーも除々に軽くなっていき、治療を始めてまだ半年だというのに、チクチクした痛みもほとんど我慢できる程度になりました。免疫抑制剤を13年間服用し続けてきましたが、ステロイドは使っていなかったのが早かったかもしれません。

また、福田は大学病院で治療している期間中、毎年寒くなると、両足裏の皮膚が硬くなり、カミソリで切ったようなあかぎれができて歩きづらそうにしていたのですが、今年は足裏が非常に綺麗になっていました。これには私もびっくりしました。爪白癬も爪の半分以上が綺麗になっていました。体の免疫が上がると色々な所が良くなるのだとわかりました。

そして最近では体中に蕁麻疹が出ては消えるようになりました。私達は松本理論の中の蕁麻疹に関するところを何度も読んで、「完治に近付いたら蕁麻疹が出る」ということ知っていたので、最初に蕁麻疹を発見した時は二人で「出一」「待っていました!」と喜びました。「これでアトピーも最終段階に入った」

と天にも昇る気持ちになったのです。

松本先生と出逢ってまだ半年ですが、大学病院のバカ医者が13年間かかっても治せなかったリウマチを、松本先生は半年あまりで完治させたのです。すごくないですか？ノーベル賞ものですよ。先生は「病気は自分が治すもんや、私は手助けするだけ」とおっしゃっていますが、先生は治療の方法を熟知しておられます。だから私は「先生の力が99%で、残りの1%がリバウンドに負けない心の強さと家族の協力だ」と思っています。

私は福田の体が松本理論の通りに治っていくのを目の当たりにしました。松本先生の指導の通りにすればリウマチは完治すると、福田の体が証明したのです。但し、リバウンドに耐える根性と家族の協力と、先生に言われた事は何でも忠実に実行するという心構えが必要です。しかし、それは簡単なことです。あのリウマチの痛みが一生続くことを思えば容易にできるはずです。

松本先生は、福田からあの死ぬ様に苦しいリウマチの痛みを取り除き、薬の副作用の恐怖から解放してくださいました。私達の残りの人生をより良いものにしていただきました。本当に感謝の言葉ありません。

私はリウマチ患者の家族として現在苦しんでおられる皆様に、この事実をどうしてもお伝えしたく思います。そしてステロイドや免疫抑制剤から早く縁を切って、松本医院を受診されるよう願っています。

最後に

インターネットの中で松本先生に対する誹謗、ものすごい悪口、批判や間違った扱いをしている人達に言いたい事、そして聞きたい事があります。

そうした事をする理由は何なのでしょう？多分リバウンドに耐え切れずに途中で治療をやめた人だと思いますが、そうであれば、貴方の方がおかしいですよ。その間違った治療でそうなったのは自分の責任です。リバウンドに耐えられない程の体を作ってしまったのも自分なのに、松本先生に責任を負わせようする貴方のその心の卑しさ。病気は素直な心がないと治りません。現に完治した人は何人もいらっしゃいます。松本医院に置いてある手記がそれを証明しています。

これから松本医院を受診しようとしている人の心を迷わせてしまうのが一番の罪です。かつてガリレオが「地球は丸い」と言って、きちがいだとレッテルを貼られましたが、松本先生もこの人と同じで正しい物の見方をされているだけはありませんか？誹謗、中傷する貴方に先生を批判する権利は有りません。松本先生は私達にとって救世主なのです。

文章が苦手ですみません、ありのままの気持ちを書かせていただきました。誤字、脱字があればお許しください。